

COLLECTION EXHIBITION

利田三造(風景(リウ)) 1909-15年頃 広島県立美術館蔵



ライオネル・ファインガー(海辺の夕暮) 1927年 広島県立美術館蔵

世界

風の

光と



松本水信(松本水信文房)
広島県立美術館蔵



北野恒吉(風) 1917年 広島県立美術館蔵

World of Light and Wind

2024 4/26(金) ▶ 7/15(月祝)

[開館時間] 9:00~17:00 ※金曜日は20:00まで開館 ※入場は閉館の30分前まで
[休館日] 月曜日(特別展の会期中、祝日、振替休日)は開館
[入館料] 一般510(410)円/大学生310(250)円 ※()内は20名以上の団体
[縮景園共通券] 一般610円/大学生350円 ※特別展は別料金
◎高校生以下無料 ◎当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
◎障害者手帳をお持ちの方や65歳以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

フリー
トークデー
6/8(土)

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう!

第1期



広島県立美術館 2階展示室

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上本町2-22
tel.082-221-6246 fax.082-223-1444

<https://www.hpam.jp/>

【概要】

所蔵作品展 第1期 光と風の世界

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数 5,200 点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展は、県内の巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」と、特別展からインスピレーションを得た「光と風の世界」の2本立てとし、バラエティ豊かなコレクションに新たな視点を吹きこんでご紹介いたします。

皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーや、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また今年度も、自由に会話が楽しめる、フリートークデーを継続いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今年の当館の活動にもご期待ください。

【第1展示室】

西洋美術に見る光と風

この展示室では、光と風にまつわる西洋美術の作品をご紹介します。

サルバドール・ダリの超現実的な世界を照らし出す「光」は、過去の巨匠たちの作品に学んだ伝統的な陰影表現にもとづいています。ダリの銅版画の光を表す線描は、卓越した光と闇の描写で知られる 17 世紀の画家レンブラントにも通じます。一方、ジョルジュ・ルオーは多色刷り銅版の豊かな色彩により、内側から滲み出す神聖な光を描きました。ライオネル・ファイニンガーの油彩画では、ガラスの重なりを思わせる線と色彩が画面に透明感を与えていますが、こうした表現は、物体としての絵画そのものによって光を喚起する近代的な感覚から生まれたものといえるでしょう。さらに、地中海の明朗な光を描いたアリスティード・マイヨールの木版画、光の効果を巧みに操ったマン・レイの写真もご紹介します。

「風」が生み出す不規則な動きを取り入れたアレクサンダー・コールダーの彫刻では、「光」が壁に映し出す影の変化にもご注目ください。

西洋近代美術における、多種多様な光と風の表現をお楽しみいただければ幸いです。



ライオネル・ファイニンガー
 《海辺の夕暮》
 1927年

【第2展示室】

日本洋画と彫刻に見る光と風

この展示室では、光や風の多彩な表現が見られる日本洋画と彫刻作品をご紹介します。

絵画表現において、「光」はとりわけ重要な要素といってよいでしょう。光の変化を丹念にたどり、対象を忠実に描き出した静物画もあれば、色彩を通じて表現された光が、描かれた季節や時間を物語る風景画もあります。小林千古の《静物（やし）》は、光の微細な変化を捉えることで、果実の質感に加えて鮮度まで表現。小早川篤四郎の農村風景は、早春の肌寒さを伝え、南薫造の《曝書》は、輝くような明るい庭と屋内の抑えた光を対比させ、夏の一日を情感豊かに描いています。一方の「風」は、対象の形を移ろわせ、画面に動きをもたらします。揺れる葉や棚引く煙、漂う雲などが生み出す変化や活気。檜山武夫や松井正の描画はその好例ですが、制作手段として風を用いた作品もあります。入野忠芳は、生乾きの絵具を風で動かす独自の表現により、代表作《風成》シリーズを生み出しました。

このたびの特集では、人物表現を通じて爽やかな風を伝える圓鍔勝三や森野圓象、また光と影をユニークに表現した峯田敏郎ら戦後の彫刻作品もご紹介します。ぜひごゆっくりご覧ください。



南薫造《曝書》
 1946年

【第3展示室】

日本画に見る光と風

この展示室では、光と風をテーマにした日本画をご紹介します。

人々に恵みと災いをもたらす「風」は、橋本雅邦^{はしもとがほう}《風神雷神》（前期展示）のように神や精霊などの超自然的存在を示す画題として描かれることがあります。一方、北野恒富^{きたのつねとみ}《風》のように日常の中に吹き込んだ風の一瞬の姿を着物や植物の動きで捉えた作品に漂う叙情も見どころです。

「光」では、風景を描いた作品を中心に、日本画における外光表現の変化をご紹介します。近代以前は、画家が実際に見た風景ではなく、名所絵や中国から伝来した山水画のように、理想化されたイメージを描くことが一般的でした。やがて近代に入ると、西洋絵画の影響によって、写実性に基づいた新しい風景表現が登場します。

次のコーナーでは、時間帯によって変化する光を捉えた風景画を紹介しています。青みがかった朝の光から、ほの暗さの中の淡い光、煌々と照らす月光等、画家たちの心を捉えた瞬間に立ち会うことができるでしょう。

最後は、「光」の中でも、金や銀の輝きを取り入れた作品を展示しています。仏を荘厳する金や、無限に広がる空間を表す金地の屏風など、その輝きが象徴する絢爛かつ厳かな世界をお楽しみください。



北野恒富《風》1917年

【第4展示室】

工芸に見る光と風

この展示室では、「光」と「風」をテーマに工芸作品をご紹介します。

まず、ガラス作品が生み出すさまざまな「光」の表情をご覧ください。色ガラスに金箔を組み合わせた藤田喬平^{ふじたきょうへい かざりぼこ}の飾皿は鮮やかに輝き、一方、船木倭帆^{ふなきしずほ}の日常使いのグラスや器は柔らかな光を湛えています。益田芳徳^{ますだよし}のガラスのオブジェは内側に銀を蒸着させることで鏡のような輝きを放ち、一口にガラ



船木倭帆《垂描文鉢》

スと言っても、三者三様の光があふれています。さらに、見る角度によって変化する輝きが魅力の黒田辰秋の螺鈿作品、光の波動を図案化した森口邦彦の友禅訪問着など、漆工や染織作品がみせる「光」もお楽しみください。

続いて、はためくマントが吹きすさぶ風を想像させる奥田小由女の人形、若葉香る初夏の風をさわやかな色調で表現した渡辺溥子の紬織着物、不思議なフォルムで存在感を放つ笹山忠保の風をモチーフにした陶のオブジェなどを展示します。多彩な工芸作品を通じて、目には見えない「風」を感じていただければ幸いです。

あわせて、優美なスタイルで世界のやきものに新風を吹き込んだ伊万里焼柿右衛門様式の優品もお楽しみください。

【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家の小林千古・南薫造・靨光、日本画家の児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家の平櫛田中・圓鍔勝三、工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1階ロビーで画家・菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



【関連イベント】

■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。

日時：2024年5月10日（金）15:00～（各室10分程度）

場所：2階展示室

講師：森万由子（当館学芸員）、藤崎綾（当館主任学芸員）、
神内有理（当館主任学芸員）、岡地智子（当館主任学芸員）

※要入館券。会場入口でお待ちください。

■対話によるギャラリートーク

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

日時：2024年6月8日（土）①13:00～②15:00～
2024年6月15日（土）15:00～

場所：2階展示室

ナビゲーター：福田浩子（当館学芸課長）、山下寿水（当館主任学芸員）
岡地智子（当館主任学芸員）、森万由子（当館学芸員）

定員：8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246（当館）】

※要入館券。会場入り口でお待ちください

■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。（約15分間）

- ①日本洋画 2024年5月21日（火）17:00～ 講師：藤崎綾（当館主任学芸員）
- ②日本画 2024年6月4日（火）17:00～ 講師：神内有理（当館主任学芸員）
- ③西洋美術 2024年6月11日（火）17:00～ 講師：森万由子（当館学芸員）
- ④工芸 2024年6月18日（火）17:00～ 講師：岡地智子（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら



■フリートークデー 2024年6月8日（土）9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを試行的に実施。当日は各種イベントも併せて行います。



●ベビーカートツアー 10:30～11:00

授乳室など館内案内の後、展示室を案内します。

講師：山下寿水（当館主任学芸員）

定員：5名

※事前申込制

※要入館券、1Fロビーにお集まりください。

●対話によるギャラリートーク

①13:00～14:00

講師：福田 浩子（当館学芸課長）、岡地 智子（当館主任学芸員）

②15:00～16:00

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）、森 万由子（当館学芸員）

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

※事前申込制〔定員8名〕

※要入館券、2階展示室入口にお集まりください。

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品か、展示室に作品を探しに行こう。

先着：100名

※要入館券

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、

1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下寿水

総務課 広報担当 一色直香

公式 SNS はこちらから

